

投稿した記事が掲載されました。



私は3期目の市議員。全国各地で100歳以上の所在不明の高齢者が続出し、世界一の長寿国家・日本に大きな影を落としている。

問題発覚後、総務省や厚労省などの通達・指示を見る限り、『対症療法』の域を出ていない。私自身も地域の「見守り協力隊」として高齢者宅を訪問しているが、ある日突然、お年寄りが音信不通になることが現実には起きている。

わが市は人口約10万人。公明議員の提案で市災害時要援護者支援計画が策定され、一

高齢者所在不明、公明らしい政策を

部地域を除いて台帳整備や個別支援プラン作成も終了している。それでも、すべての対象者把握は困難だ。大都市部では、より難しいだろう。

高齢者の実態把握を進める上で、①住民基本台帳の管理②個人情報保護の壁をどう考えるか③最前線に立つ民生委員の役割のあり方——など論点は煮詰まりつつある。

一方で日本社会のシステムそのものの問題でもある。自助・共助・公助を掲げた「山口ビジョン」と「新しい福祉」の公明党こそが、検討中の社会保障トータルビジョンで、根源に迫る政策を打ち出すべきではないか。地方議員の声も聞いてほしい。

(S)